

朝霧中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

参考資料

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
（旧明舞南県住宅自治会） 松が丘第2住宅自治会	・朝霧地区のセンター相談対応事例のうち、松が丘5丁目が2番目に件数が多く、その内、72％が県営住宅、また、支援の必要性が高い地域である。 ・昨年度、県住建替えが完了した。高齢化が進む中で、新旧の住民の新しいコミュニティづくりが必要と考えるが、センター主導で住民に個別アンケートはハードルが高く、住民の抵抗感があると思われる。自治会キーパーソンとセンターの役割の周知が住民の話題となっていた。建て替え前の集会所の時から続いている集いの場に訪問、センターの機能を周知することが必要である。	・新旧住民が顔の見える関係が出来、生活の困りごとを支え合える。 ・困りごとがあるときに住民同士で適切な相談窓口につなぐことが出来る。	「 ご 近 助 力 」 を 高 め よ う	・自治会キーパーソンと話し合いを進めながら、すでにある集いの場を活用した出前講座を開催し、新旧住民の交流のきっかけとなる場をつくる。	◎ 総合相談 権利擁護 一般介護予防 地域ケア会議 包括的継続的 医療介護連携 生活支援体制整備	4月	健寿会訪問・出前講座の打ち合わせ	10月	
						5月		11月	出前講座（人生会議）
						6月	出前講座（センターの役割・介護保険）	12月	
						7月		1月	
						8月		2月	座談会（振り返り）
						9月	出前講座（消費者被害）	3月	

朝霧中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしてい	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
朝霧中学校区	・地区対応事例のうち認知症がある方が64%を占めている。認知症になっても地域で安全安心に暮らせるまちづくりの構築が必要である。 ・昨年度、松っ子まつりで、キャラバンメイト・シルバーサポーターがオレンジサポーターの認知度調査を実施したが、オレンジサポーターを知っていたのは261人中55人(21%)で、若い世代への周知が必要であることがわかった。 ・令和5年度に認知症学習会で小地域を10か所回った。講話での意見交換の中で、住民は自分自身の認知症予防には関心があるが、認知症であるご本人やその家族に対する関心は低いことがわかった。	・住民が認知症を正しく理解し、主体的にあいさつ、声掛け、オレンジサポーター養成講座等の認知症理解を進める活動に参加する。 ・若い世代が認知症のことを理解し、地域の高齢者の生活に関心を持ち、あいさつ、声掛けが住民同士で行える。	「認知症です。」と言えるまちづくり	・認知症予防だけでなく、認知症ご本人や家族の思いを知る講座を開催し、自分事として考える機会を増やす。 ・小学校と連携、松が丘小学校4年生を対象にオレンジサポーター養成講座を開催し、あわせて保護者世代への啓発につなげる。	◎ 認知症	4月		10月	・広報紙記事作成 ・キャラバンメイト・シルバーサポーターによる地域行事での認知症啓発 ・権利擁護勉強会	
	・キャラバンメイト・シルバーサポーターは積極的に啓発活動に関わって頂いており、もっと主体的に動ける機会を作ることで、より活動的になるのではないかと考える。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターを中心としたチームオレンジづくりと自立した活動ができる。		・キャラバンメイト・シルバーサポーターの主体的な活動を支援し、住民同士が認知症理解を発信できるように支援する。	医療介護連携	5月	広報紙記事作成	11月	キャラバンメイトやシルバーサポーターとの交流会 民生児童委員・介護支援専門員交流会の開催	
	・令和5年度の取り組みから、権利擁護について、身近にあることとして意識は高まったが通報に抵抗がある ・消費者被害については、毎月防犯協会から、まちづくり協議会の役員会、理事会に情報提供されており、住民の関心は高い。	・民生児童委員・住民・介護支援専門員が連携して住民の変化に気づき必要時にセンター等に相談ができる。 ・地域住民が消費者被害に遭わないように、地域住民同士で声をかけあったり、地域住民が被害にあったと思われるときに速やかに相談窓口につながるができる。		・センターが居宅介護支援事業所の巡回訪問を通して出た意見をもとに介護支援専門員や介護サービス ・高齢化率が高い地区を対象に消費者被害予防の啓発活動を行う。	権利擁護 包括的継続的	6月		12月	個人向けオレンジサポーター養成講座	
	・センターの役割を知っている住民が増えているが、こういった相談ができるのか周知されていない。	・住民が生活の困りごとがあったときに、適切な相談窓口につながる。		・引き続き啓発活動を行う ・自治会長へのセンターの役割りの周知を行う。	生活支援体制整備	7月	自治会長へセンターの役割を周知	1月	・学校でのオレンジサポーター養成講座	
						8月		2月		
						9月	・松が丘小学校4年生を対象にオレンジサポーター養成講座 ※オレンジサポーター養成講座実施⇒随時	3月	※キャラバンメイトやシルバーサポーターの活動支援⇒随時	
					総合相談					

大蔵中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け② (どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決する ところなる、なっほしい③	プロジェク ト名	課題（現実と理想のギャップを埋め る）やること① ④	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
大蔵中 学 校 区	・住民が認知症に対して、自分自身 が認知症になってしまったらどうし ょうという不安や危機感があり、認 知症予防への関心が高い。 ・住民の認知症予防への関心は高い が、オレンジサポーターのように自 分が認知症の方の見守りやサポート することに対して心理的に負担を感 じている。	・地域住民レベルで、自らが認知 症当事者のサポーターであるとい う意識が浸透する。今後オレンジ サポーターが若い世代にも広が り、認知症にやさしいまちにな る。 ・シルバーサポーター、キャラバン メイトが主体的にオレンジサ ポーター養成講座の開催や自主的 な活動ができるように後方支援を 行う。	認 知 症 を 地 域 で 支 え る プ ロ ジ ェ ク ト	・認知症理解啓発の取組みを考えてい る自治会、高年クラブ等にオレンジサ ポーター養成講座、認知症学習会の開 催を働きかける。 ・地域内で認知症当事者、家族の思い を発信することが出来る人を発掘し、 住民に対して認知症についての正しい 理解を得る。 ・シルバーサポーターやキャラバンメ イトによるオレンジサポーター養成講 座や認知症啓発等の主体的な活動への 移行を目指す。	◎ 認知症 生活支援体制 整備 総合相談 包括的継続的	4月	太寺4丁目自治会にアプロー チする。	10月	
						5月	人丸児童クラブにオレンジサ ポーター養成講座の開催の打 診を行う。	11月	
						6月		12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月	オレンジサポーター養成講座 の周知、実施（随時）	3月	
							発信が出来そうな認知症当事 者や家族の発掘（随時）		
							キャラバンメイトやシルバー サポーターの活動支援（随 時）		

大蔵中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決する ところなる	プロジェ クト名	課題（現実と理想のギャップを埋め る）やること		年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
大蔵 中 学 校 区	・センター、地域住民、専門職が感じる地域課題について話し合い、共通認識を持ち、地域と専門職が連携する。 今後、まちなかゾーン会議で、地域の高齢者に対して生活課題抽出アンケートを実施する。 ・圏域の居宅介護支援事業所やサービス事業所と、地域の課題の共有ができていない。 ・地域の住民同士のつながり・助け合いの把握をセンターができていない。住民、専門職が地域の資源が分からず、連携できていない。	・介護支援専門員と民生児童委員、地域で共に助け合える関係性を構築する。 ・まちなかゾーン会議メンバーとともに生活課題抽出アンケートを大蔵地区の65歳以上の独居、サロン等に通われている方を対象に実施、生活課題の把握を行う。生活課題から地域での取り組み等の検討を行う。	地 域 と 専 門 職 を つ な ぐ ブ ロ ジ エ ク ト	・居宅介護支援事業所巡回、居宅介護支援事業所との交流会を通して地域課題のヒアリングを行い、地域課題の把握を行う。 地域の団体と連携し、地域の商店等を一緒に訪問し、地域住民の助け合いや困りごとを共有する。 ・まちなかゾーン会議メンバーとともに65歳以上の高齢者（独居やサロンに来られる方）を対象にした生活課題抽出アンケートを行い、生活課題や地域での助け合い活動の把握を行う。	◎ 生活支援体制整備 総合相談 包括的継続的 地域ケア会議	4月		10月	生活課題抽出アンケート実施
						5月	第1回まちなかゾーン会議	11月	第3回まちなかゾーン会議
						6月		12月	生活課題抽出アンケート集計
							生活課題抽出アンケート 2～3か所テスト実施		
						7月		1月	生活課題抽出アンケート集計
						8月	第2回まちなかゾーン会議	2月	第4回まちなかゾーン会議
						9月	生活課題抽出アンケート アンケート実施	3月	
対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決する ところなる	プロジェ クト名	課題（現実と理想のギャップを埋め る）やること	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
大蔵 中 学 校 区	・困難な事例の相談は専門職(主に介護支援専門員)からの連絡、相談が中心だが、相談が遅れ、重篤化した段階での対応となる。 ・特殊詐欺予防の啓発を行っているが、住民、関係機関、専門職から連絡が入り、特殊詐欺未遂が引き続き確認されている。	・センター、民生児童委員、専門職との顔の見える関係づくりと共に地域住民の小さな異変に気づき、どのような場面で相談を行ったらいかが共通の視点を持ち、理解できるにする。 ・地域住民や民生児童委員が住民の異変に気がついたとき、センターに相談をすることができる。 ・地域住民・専門職への特殊詐欺予防の啓発を継続する。	み ん な で 見 守 り ブ ロ ジ エ ク ト	1.居宅介護支援事業所、サービス事業所への巡回を実施し、各事業所での支援で困っていること等を聞き取り、交流会での研修に生かしていく。 2.民生児童委員と居宅介護支援事業所との交流会を開催、民生児童委員と専門職が理解を共通にし、地域の困りごとの早期発見を目指す。 3.居宅介護支援事業所同士の交流会、介護支援専門員とセンターが共通の理解の上、支援を行う。 4.ボランティア、民生児童委員、地域住民等が集まる場所で特殊詐欺予防の啓発を行う。	◎ 権利擁護 認知症 総合相談 包括的継続的	4月	居宅介護支援事業所との交流会 高齢者虐待研修会の内容検討	10月	居宅介護支援事業所との交流会
						5月	居宅介護支援事業所の巡回		民生児童委員、居宅介護支援事業所との交流会実施
						6月	居宅介護支援事業所の巡回		
								12月	
						7月	居宅介護支援事業所の巡回、居宅介護支援事業所との交流会		居宅介護支援事業所との交流会
						8月	民生児童委員、居宅介護支援事業所との交流会内容検討		
						9月		3月	

錦城中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け② （どんな情報を根拠にしているか）	目標（目指すべき理想）解決するとうなる、なっしてほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
錦城校区全体	・令和5年度実施した「認知症について何かできない会」には、支援者としての立場で参加する方がほとんどだと思っていたが、当事者とその家族の参加もあった。介護の抱え込みを予防する効果もあることがわかった。 ・認知症当事者の方の話を聞くことで、自分が認知症と診断されたときの場面をイメージして考えている方が多く、我が事として考えてもらうことにつながった。 ・「認知症について何かできない会」の継続開催を希望される声が多かった。	・さらに地域において認知症の理解者が増える。 ・幅広い年齢層の人にも「認知症について何かできない会」に参加してもらう。（特に若年層） ・「認知症について何かできない会」が、もっと参加者の意見を反映した、満足度の高い会になる。	認知症について何かできない会	・若年層が参加しやすいように土曜日に開催をする。 ・事前の打ち合わせにキャラバンメイト、学生（福祉科）などに参加してもらう。 ・広報の方法を工夫する。（自治会の掲示だけでなく、地域の催しでチラシを配布するなど） ・認知症当事者の方の話を聞く機会を設ける。	◎ 認知症 生活支援体制整備	4月		10月	
						5月		11月	9日or16日認知症について何かできない会
						6月	1日 会場予約	12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

※年度途中で変更する場合は、訂正の線を引いて赤字で修正してください

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとうなる、なっほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
錦城校区全体	・個人情報保護の壁があり、本人の同意が取れない場合の民生児童委員と介護支援専門員との連携が難しい。 ・互いに連携した経験のない民生児童委員、介護支援専門員がいる。 例えば「担当者が変わったとき」や「対象者が入院したとき」など、民生児童委員、介護支援専門員それぞれ連携したいタイミングがある。	・民生児童委員と介護支援専門員が、必要なタイミングに必要な情報を提供できる。	支援者同士の繋がりがプロジェクト	・民生児童委員と介護支援専門員のより良い連携に向けて、個人情報保護法について共通理解する。 ・民生児童委員と介護支援専門員がそれぞれの連携が必要なタイミングを知る。	◎ 包括的継続的	4月		10月	民生児童委員と介護支援専門員の交流会
						5月	第1回民生児童委員との打合せ	11月	交流会のまとめを民協で報告
						6月	講師依頼・会場予約	12月	
						7月		1月	
						8月	第2回民生児童委員との打合せ	2月	
						9月	案内配布	3月	

※年度途中で変更する場合は、訂正の線を引いて赤字で修正してください

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け② （どんな情報を根拠にしているか）	目標（目指すべき理想）解決するとうなる、なっほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
センター全域	・昨年度のオレンジサポーター養成講座の開催は依頼により3回であり、キャラバンメイトと協働し狙いを持った講座が行えていない。	・オレンジサポーター養成講座を3回以上開催する。	プロジェクトつながりの輪をを広げよう	・キャラバンメイトミーティングを開催し、キャラバンメイトと共にオレンジサポーター養成講座の企画を考える。	◎ 認知症	4月	案内送付	10月	案内送付
						5月		11月	
						6月	R6年度第1回キャラバンメイトミーティング開催	12月	R6年度第2回キャラバンメイトミーティング開催
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

衣川中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところ、なる、なっている③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
王子小学校区	・認知症予防や認知症の方への対応について関心が高い現状がある。 ・介護支援専門員と面識のない民生児童委員がいる現状がある。	・認知症という疾患を理解している人を増やし、認知症の人がサロンや地域の集いの場に可能な限り通い続ける事が出来る。 ・一人暮らし高齢者等の地域自立生活に向けて民生児童委員と介護支援専門員が手を携えられる。	あおふれい様地域いづく声りが	・個人向けオレンジサポーター養成講座を実施する。 ・民生児童委員と介護支援専門員との交流会を実施する。	◎認知症生活支援体制整備 包括的継続的	4月	個人向けオレンジサポーター養成講座の実施日を決める	10月	個人向けオレンジサポーター養成講座を実施する(予定)
						5月		11月	
						6月	民生児童委員会と介護支援専門員との交流会の打ち合わせを会長と行い開催月を決める	12月	
						7月	民生児童委員会と介護支援専門員の交流会を行う(予定)	1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところ、なる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
南王子地区	・一人暮らし高齢者等が、もし自宅で倒れたら誰に助けてもらうのだろうと不安の声があった。 ・予防をはじめ、一人暮らしの備えについて知りたいとの声があった。	・1人暮らし高齢者などが自分なりの予防や終活が行える。	プ安ロ心ジ感エ育クミト	・一人暮らし高齢者等の備えとして、すこやかサロンにおいて以下の情報提供を行う。 ・もしもの備えシート ・終の棲家について考える ・救急れんらくばん ・整形疾患（骨折予防・下肢筋力維持向上）に関する基礎知識 ・認知症（予防・対応）に関する基礎知識ほか	◎認知症権利擁護一般介護予防	4月	すこやかサロン実施	10月	すこやかサロン実施
						5月	すこやかサロン実施	11月	すこやかサロン実施
						6月	すこやかサロン実施	12月	すこやかサロン実施
						7月	すこやかサロン実施	1月	すこやかサロン実施
						8月		2月	すこやかサロン実施
						9月	すこやかサロン実施	3月	すこやかサロン実施

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところ、なる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
林地地区	・サロン参加者の多くが地域総合支援センターについて知っていたが、その機能については知らない人が多かった。	・サロン参加者等がセンターの機能について知ること、困りごとを抱えた方にセンターを紹介できる。	プ気ロ軽ジにエ相ク談ト	・まちづくり協議会の理事会、自主グループ活動、各サロン、高年クラブ等へ改訂版センターチラシ等を活用しセンターの役割機能について説明を行う。 ・サロン参加者が知る住民同士の繋がりや、相談のしやすさ等の地域の実情について改定版センターチラシ等を活用して把握する。(ヒアリング)	◎生活支援体制整備総合相談	4月	まちづくり協議会理事会へ出席 自主グループ活動へ顔出し ヒアリングの打診を行う 高年クラブ会合へ顔出し	10月	
						5月		11月	
						6月		12月	
						7月			
						8月	ヒアリングを実施する	1月	
						9月		2月	

衣川中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
センター 全 域	・令和5年度のアレンジサポーター養成講座の開催は依頼により3回であり、キャラバンメイトと協働し狙いを持った講座が行えていない。	・アレンジサポーター養成講座の開催回数が3回以上になり、高齢者だけでなく、高齢者に接する機会のある人へ認知症の正しい理解が広がる。	つながりの輪を プロジェクト を広げよう	・キャラバンメイトミーティングを開催し、キャラバンメイトと共にアレンジサポーター養成講座の企画を考える。	◎ 認知症	4月	案内送付	10月	案内送付
						5月		11月	
						6月	R6年度第1回キャラバンメイトミーティング開催	12月	R6年度第2回キャラバンメイトミーティング開催
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月		3月	

望海中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するとどうなる、なっている③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
望海	・世代間でそれぞれスクールガードの後継者不足などの地域課題は感じていたが、全体で共有する場が無いことが分かった。 ・カレンダーを配布し、センターの周知を行い、これまで電話のみでのやり取りしかなかった関係機関と対面で関係性づくりを行った。また事例の相談が市役所経由で入ってくることも多く、センターの役割の周知が不十分だと感じる。 ・R5年度に対応した個別事例では、地域で孤立し介護問題が複雑化した8050世帯の支援者からの相談が多かった。	・地域住民の年代を超えた交流が継続して行われることにより、住民同士のつながりが強固となり、困りごとの相談、発見が早期に行われる。 ・企業・商店などからも困りごとの相談、発見が早期に行われる。	結んでつないで	・貴崎校区でみんなのひろばを開き、地域住民と地域課題について考える機会を作る。 ・カレンダーの配布を地域の企業や商店にも配布していく。 ・センター広報紙でセンター業務の周知を強化する ・8050世帯を支えるための支援者が感じている問題と一緒に取り組み、支援者に伴走する。	◎ 総合相談 包括的継続的 生活支援体制整備 権利擁護	4月 5月 6月 7月 8月 9月	まちなかゾーン会議 貴崎校区座談会 広報紙の内容の検討 広報紙配付 カレンダー内容検討 高齢者虐待防止研修	10月 11月 12月 1月 2月 3月	民生児童委員、介護支援専門員 懇談会 みんなの広場 カレンダーを配付する 広報紙内容検討 広報紙配付

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとどうなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
望海	・居宅介護支援事業所への巡回により「にしあかし版人生会議」の利用について、中身を検討して保存してもらおうという趣旨通りの利用が浸透していない事が分かった。 ・人生会議を知らない地域住民は多く、知ってもらえる機会が必要。 ・現役世代、子ども世代に認知症について学ぶ機会を作ったが「認知症に理解ある地域」となっていくためには、同様の取り組みを続けていく必要がある。	・人生会議の内容を形に残したり、家族や支援者と共有することが出来るようになる。 ・多世代の地域住民に対し人生会議の理解が進む。 ・地域で認知症に対する理解が深まる。	予望海護	・人生会議の内容を形に残し、家族や支援者と共有することについて、研修・交流会等で啓発する。 ・現役世代、子ども世代にオレンジサポーター養成講座が開催できるように、キャラバンメイトと協力して働きかける。	◎ 医療介護連携 認知症 包括的継続的	随時 4月 5月 6月 7月 8月	・各研修等でもしもの時の備えシート、にしあかし版人生会議の用紙を配布 ・個人向けオレンジサポーター養成講座について40,50代が参加しやすい日時、場所を調整 5/21 藤江駅前オアシスにて認知症状況の勉強会を実施（認知症の気づきについて）	9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	居宅介護支援事業所への巡回 みんなの広場 ほっこりMeeting

望海中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところとなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業 主となる事業に◎		年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
望海	・ボランティア活動に協力してもらったボランティアが、居場所づくりの即戦力になる為の仕組みが必要。 ・若い世代でも担い手に関心がある事が分かり、SNSなど情報共有のツールを活用すれば、新たな担い手の発掘に繋がる可能性がある。 ・50代以下への認知症の啓発を行った際、担い手に関心がある参加者もいたため、活動に繋げる仕組みが必要だと感じた。	・地域活動者が増え、居場所やつどいの場が増える。 ・広い世代に情報発信するツールができる。	ニナゾー	・健康教室の講師や調整役にボランティアの協力を募る。 ・2次元コードをチラシや広報紙、カレンダーに用い、住民に対し明石市社会福祉協議会やセンターの周知を図る。	◎	一般介護予防 生活支援体制整備	通年	センターが、毎月実施している健康教室の調整役や講師についてゾーン会議のメンバーに協力を仰ぎ地域の健康づくりへの協力者を募っていく。	10月	
							4月		11月	
							5月		12月	カレンダー配布
							6月			
							7月			
									1月	
							8月	広報紙配布	2月	広報紙配布
							9月	カレンダー内容検討	3月	

野々池中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしている)	目標（目指すべき理想）解決するところ、なる、なっている③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
野々池	・サロンでの講座の開催は難しいが、住民主体の高齢者や認知症の方の理解促進につながる場があることが分かった。依然として高齢者や認知症の方の理解の不足が要因となっている事例の相談件数が多い。	・地域活動を見守りつつ、住民が高齢者や認知症の方の理解促進につながる機会を持つことで、高齢者や認知症の方が住みやすい地域になる。 ・住民が高齢者や認知症の方の理解促進につながる場に参加することで、介護者同士・住民と専門職で新たな繋がりができる。	get ready for の	・サロンで虐待や詐欺防止、後見、終活、認知症について等高齢者や認知症の方の理解促進につながる内容の講義を実施する。 ・地域別に総合相談で受けた相談内容の分析を行う。	◎ 権利擁護	4月	ボランティア小鳥の会にて健康測定会開催の相談	10月	
					◎ 医療介護連携	5月	野々池民生児童委員会長に介護支援専門員との懇談会について相談する	11月	
					◎ 包括的継続的	6月	あかねカレッジライトコースで介護保険制度のことについて講義	12月	
	・高齢者には人生会議が浸透しつつあることが分かったが、圏域内の学校に人生会議・認知症アプローチが出来ていない。また過去に小学生向けに実施したオレンジサポーター養成講座で、保護者から「子どもを怖がらせたくない。」という意見も聞かれ、認知症の正しい理解に向けた啓発が必要。	・若い世代が認知症や人生会議について知る機会が増える。（小学校、中学校、大学） ・キャラバンメイト交流会等でキャラバンメイトとの関係構築ができ、キャラバンメイト自身が地域課題を見つけることができる。		・野々池中学校で人生会議や認知症の方への理解促進に向けた取り組み展開ができる。 ・笑くぼ（健康相談会）で県立看護大学と協働で健康講座を実施する。	◎ 一般介護予防 ◎ 認知症 ◎ 生活支援体制整備 ◎ 総合相談 ◎ 地域ケア会議	7月	既存の測定会の活動支援	1月	
	・専門職と協働することで関係性づくり、多世代の地域住民への啓発が必要という課題の共有ができた為、これらの取り組みを継続していく。	・専門職の地域活動への参加が継続できる。		・キャラバンメイトを取得している専門職にオレンジサポーター養成講座の講師を依頼したり、地域活動に参加してもらえるよう関係構築を図る。 ・介護支援専門員と民生児童委員の交流会を開催する。		8月	既存の測定会の活動支援	2月	ののいけ耳より交流会の開催
						9月		3月	
	・松の内公民館が会合以外で活用されておらず、集まりを立ち上げる中心人物がいない事が分かった。また鳥羽小学校地区では、PTAが無くなり、子どもと地域の繋がりが希薄になっていると情報があった。	・松の内での健康測定会やマルシェが開催できる。 ・松の内公民館を利用した活動の場ができる。 ・鳥羽小学校区の子供と地域の繋がりが保てる。		・松の内での健康測定会、松の内マルシェを開催する。 ・鳥羽小学校の地域資源や特徴を把握する。					
	・健康測定会を住民自ら企画運営できるようになりつつある。 ・健康測定会に介護支援専門員や福祉用具事業所の職員等の専門職の協力依頼を継続する必要がある。	・住民主体で健康測定会を開催できる。住民同士のつながりができ、サロンや健康体操（自主活）の定期開催に繋がる。 ・専門職が参加する地域活動の場が広がる。		・住民主体での健康測定会が行えるよう支援していく。 ・地域活動に専門職が参加でき、このような活動が広がるように情報提供していく。					

大久保中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしている)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なっている③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
藤が丘地区	・センター機能や役割等についての周知・啓発活動を行う中で、センターに寄せられた事例についての地区別の分析を行った。藤が丘地区の相談割合が多く、外部機関へご自身の相談がしづらかった事例が見られた。 なお、藤が丘地区は高齢化率が1丁目46.3%(75歳以上27.1%) 2丁目40.1%(75歳以上25.5%)と明石市の中でも高い地域であり、今後も支援が必要な事例が見込まれる。センターに少しでも早く相談いただけるように周知を行っていく必要がある。	・早期に相談を受け解決を行うことにより、住み慣れた藤が丘地区で暮らし続けることができる。	気軽に相談プロジェクト	・現在関わっている地域活動や地域資源、フォーマルサービスとの連携を密に行い、地域の情報を収集する。また、センター主催での行事を通して、広く地域住民にセンターが公的な相談窓口であるとの周知を行っていく。	生活支援体制整備	4月	地域の関係機関や活動団体、キーパーソンなどの確認	10月	早めに相談していただけるようにセンター周知や効果的な情報提供等を地域のキーパーソン等と相談する
					総合相談	5月		11月	
					権利擁護	6月	把握した機関、団体、KP等から情報収集、分析	12月	
					医療介護連携				
						7月	把握した機関、団体、キーパーソン等から情報収集、働きかけの検討	1月	
					包括的継続的	8月		2月	周知活動等の効果判定、次年度へ向けて検討
					一般介護予防	9月		3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
大久保南地区	・令和5年度の認知症に関わる警察からの相談が、大久保地区は27件あり。 ①ゆりのき地区8件 ②大久保町5件 ③谷八木地区・八木地区各3件 ④その他の地区8件 また、ゆりのき地区で重点的に対応した事例6件のうち4件が認知症による相談であった。また、明石市人口増加人数のうち75%はこの地区に集中しており、20年間で人口が倍増した転入者の多い地区である。20代や40代50代の増加により高齢化率は15.99%と低率だが、高齢化率は年々上昇している。若い世代も含めた地域住民全体に認知症の正しい理解を広めていく必要がある。	・若い世代も含めた地域住民全体に認知症の理解を広げ、認知症になっても住み続けることができる町を目指す。転入者が多く、顔の見える関係が築きにくい、地域とのつながりや多世代交流の機会を持ち、次世代がいきいき暮らせる街を目指す。	地域のつながりプロジェクト	①自治会、まちづくり協議会などに認知症の正しい理解を広める活動をする。 商業施設や金融機関、医院などが多い地域のため、それぞれの機関と連携が取れるような関係作りを継続的に進める。 ②まちなかゾーン会議での検討を通して、地域の団体等と防災について一緒に検討できる関係性の構築、及び小地域で多世代交流やつながりづくりを目的とした取組を行う。	生活支援体制整備	4月		10月	まちなかゾーン会議主催にて多世代交流やつながり作りを目的とした取り組みを行う
					地域ケア会議	5月		11月	
					総合相談	6月	自治会、まちづくり協議会、マンションなどに認知症の理解を広める取組を行う まちなかゾーン会議で取組の具体策検討	12月	
					権利擁護				
					医療介護連携				
					包括的継続的	7月	商業施設、金融機関、医院などへ理解を広める取組を行う	1月	まちなかゾーン会議として、地域の団体等と防災に関して協力して検討できるような関係作りをする
					認知症	8月	まちなかゾーン会議で取組の具体策検討	2月	
						9月		3月	
					一般介護予防				

大久保北中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なしてほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
緑が丘	他地区と合同で地域課題の解決に向けた地域ネットワーク会議で、花壇の整備やボランティア活動の効果を共有できた。また、多世代との交流や後継者問題についての課題が挙げられた。	・個々に合った情報収集の方法で、必要な情報を入手できる。 ・地域の実情に即したボランティア活動ができる。	緑が丘いいとこ探しプロジェクト	・第2回地域ネットワーク会議を開催。参加者から、多世代交流についての課題や後継者がいないという地域課題の問題点についてヒアリングを実施し、今後のアプローチの方向性を検討する。	◎ 総合相談 地域ケア会議 生活支援体制整備	4月 5月 6月 7月 8月 9月	第2回"5年後の山手台・緑が丘にとって住みやすい街づくりを考える会"開催	10月 11月 12月 1月 2月 3月		

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
大久保ダイヤハイツ	・住民より、集会所を使ってコロナ前のような住民同士の交流の場をつくりたいとの意見を聞いた。しかし、自治会の規定で集会所の利用が制限されていたため、具体的な話し合いに進んでいない。	・集会所で住民が交流の場を自由に持てる。マンション内で顔見知りが増えて、支え合いができる。	ダイヤハイツ交流プロジェクト	・新役員との意見交換を行う。意向を確認する。令和6年度の集会所利用に関して、住民の意向を確認する。	◎ 一般介護予防 生活支援体制整備	4月 5月 6月 7月 8月 9月	新役員と交流 住民のニーズを確認する 健康教室開催 協力者と今後の方向性検討 明石市と協働で自主活動スタート	10月 11月 12月 1月 2月 3月	自主運営による自主活動スタート	体力測定会

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
西脇市・北住市・南住市	・取り壊しの方向性が決まっている。時期は未定だが、転居のための支援が必要となる可能性がある ・昨年度は複合課題のある世帯からの相談が多く、転居のための手続き代行や支援が必要な状態である。	・民生児童委員と連携を取りながら転居への支援ができる。 ・高齢世帯、複合課題のある世帯が必要な時にすぐに支援につながる。民生児童委員と見守りが必要な世帯の共有ができています。	生活見守りプロジェクト	・転居後も必要なサービスを継続して受けながら生活ができる ・転居先の民生児童委員と連携をとる ・転居地の地域資源へつなぐ。 ・西脇県住でサテライト相談を開催し、困りごとの早期発見につなげる。	◎ 権利擁護 医療介護連携 包括的継続的	4月 5月 6月 7月 8月	西脇県住・南住市の集会所でセンターの周知を行う サテライト相談会について民生委員と相談する。 サテライト相談会実施①	10月 11月 12月 1月 2月 3月	サテライト相談会実施②	サテライト相談会実施③

大久保北中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）				
						4月	サロンを訪問し、活動支援	10月		
堂 の 上	・広い年齢層が集まるサロンがあるが、集会所の改修によりサロンの活動場所が変更になってしまう。 ・古くからの家屋が多く見守りやセンターの対応が必要な事例があった。	・サロンが継続して活動できる。 ・民生児童委員だけでなく、サロン参加者もキーパーソンとなるような、地域を見守る意識が育まれる。 ・見守りができて、必要な方に支援につながることができる。	2時だよ全員集合！！	・改修中も活動が継続できるようにサロンを訪問し運営支援する。 ・集いの必要性や、出前講座などの協力できる事を伝えながら、地区担当との顔合わせを行い、相談しやすい関係を作る。	◎生活支援体制整備 総合相談	5月	出張講座開催	11月		
						6月		12月		
						7月		1月		
						8月	（未定）新集会所見学会	2月		
						9月		3月		

高丘中学校区 地域支援計画書（令和6年事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしている)	目標（目指すべき理想）解決するとどうなる、なっている③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
高丘西小学校区	・小地域で個々のつながりはあるものの、校区全体のつながりには至っていない。 ・隣接する地域でもお互いの状況は知らないことが多い。 ・既存の地縁組織等でも「後継者」と「多世代交流」は共通の課題。	・校区全体で助け合いネットワークが構築されている。	たのしくかつどうにっこりしようプロジェクト	・第2回山手台・緑が丘地域ネットワーク会議を開催する。 ・地域のキーパーソンと協働してまちなかゾーン会議主催の小地域活動を継続する。 ・高丘西校区まちづくり協議会と協働した地域づくりを行う。	◎ 生活支援体制整備 地域ケア会議	4月	高丘西まち協幹事会（毎月）	10月	まちなかゾーン会議の小地域活動①
						5月	第2回山手台・緑が丘地域ネットワーク会議	11月	
						6月		12月	
						7月	七夕まつり	1月	まちなかゾーン会議の小地域活動②
						8月		2月	
						9月		3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとどうなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
高丘中学校区	・自分が望む医療や介護について、自分自身で深く考えたり、家族と一緒に話し合う機会が少ない。	・住民だれもが人生会議をわが事として考えることができています。	もしもの時の備え方～えがおでしゃきっとびんびん生きよう（ACP）～プロジェクト	・全職種が「もしものときの備えシート」を普及させる。 ・サロンでの講話や民生児童委員・協力員の研修会等で、人生会議の啓発を行う。	◎ 医療介護連携 一般介護予防 権利擁護	4月	ゆうがおサロン講話	10月	
						5月	（サロン等へのシート普及や講話は随時）	11月	民生児童委員・協力員研修会
						6月		12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月	▼	3月	▼

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとどうなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
高丘中学校区	・昨年「呆が楽会」が認知症カフェとして立ち上がり、今後は買い物支援や集いの場など、様々な活動への展開が検討されている。 ・昨年、「脳力アップ教室」が開催され、教室終了後は自主グループ活動への移行が検討されている。	・「呆が楽会」が多世代のつながりと支え合いのプラットフォームになる。 ・自主グループとしてメンバーが主体的に取り組み、活動が定着する。	かっさあるよりどころいきいきばっちりプロジェクト	・「呆が楽会」の運営支援を継続する。 ・自主グループ活動の立上支援と運営支援を実施する。	◎ 認知症 生活支援体制整備	4月	自主グループ活動立上げ支援	10月	
						5月	呆が楽会	11月	呆が楽会
						6月		12月	
						7月	呆が楽会	1月	呆が楽会
						8月		2月	
						9月	呆が楽会 ▼	3月	呆が楽会

江井島中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
江井島全域	・認知症の理解や正しい対応の仕方、早期に発見できる体制づくりの構築への継続した取組が必要なことがわかった。 ・オレンジサポーターやシルバーサポーターなど、理解者や活動者を増やす必要性が高いことがわかった。	・認知症の理解や正しい対応の仕方が周知され、必要な方への見守りが行えることにより、認知症になっても住みなれた地域で生活できる。 ・オレンジサポーターやシルバーサポーター等の養成講座の受講者が増加し、サロンで認知症の方への対応ができるサポーターが増え、地域の様々な活動の担い手として参加する。	暮らし慣れた地域で暮らした地域で	・引き続き、自治会等に働きかけ、認知症勉強会、SOS声かけ訓練を実施する。 ・人権教育推進員と連携し、自治会等に向けて、オレンジサポーター養成講座の開催を促す。	◎ 医療介護連携 権利擁護 包括的継続的一般介護予防 認知症 地域ケア会議 生活支援体制整備 総合相談	4月		10月	認知症勉強会の開催
						5月		11月	SOS声かけ訓練の実施
						6月	実施場所の検討 等	12月	
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月	具体的な内容の検討 等	3月	SOS声かけ訓練の振り返り

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
江井島全域	・地域活動者への聞き取りの結果、出前講座等の開催場所の再検討が必要となった。 ・金融機関等の民間企業や圏域内のサービス事業所との連携が図れていないことから、早期の相談につながっておらず、地域資源が有効に機能していない。	・フレイル予防研修会や出前講座に参加した地域住民が、気になる方の情報をセンターに相談しやすい体制が構築される。 ・民間企業等から福祉に関する相談がセンターに入るようになり、早期発見・早期対応ができるようになる。また、地域資源が地域住民の希望に沿った形で活用される。	みんな支那援助のつわろう	・令和5年度、江井ヶ島総合市場で実施していた出前講座を、地区社会福祉協議会等が実施するフレイル予防研修会時やサロン、高年クラブ、自治会等の団体へ向けに行っていく。 ・民間企業とは対応の困難な事例、サービス事業所等とは地域課題の共有を図り、必要な連携の在り方を検討する。	◎ 医療介護連携 総合相談 権利擁護 包括的継続的一般介護予防 認知症 地域ケア会議 生活支援体制整備	4月		10月	
						5月		11月	
						6月	民間企業等へ聞き取りを行う	12月	必要な連携の在り方を検討する
						7月		1月	
						8月		2月	
						9月	サービス事業所等へ地域課題の共有を図る	3月	

魚住中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしている)	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる、なってほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
魚住中学校区（土山）	昨年度取り組んだ新小谷自治会と隣接した地域で、センターから遠方等の立地条件から来所相談がないことや、当事者から直接的な相談が少ないなどから、相談先としてのセンター周知が行き届いていない。	相談経路の軸となる民生委員や自治会長と連携を強化し、相談が滞ることのないようネットワークが構築できる。	困りごとを早期に相談できる体制づくりを目指す	・今までの相談を把握、確認 ・民生委員、自治会長、活動代表者と関係づくり ・民生委員、自治会長、活動代表者へ地域の状況について聞き取り ・センターが周知されていなかった場合は、周知方法を検討 ・検討後、周知のための取組実施	◎総合相談	4月	・相談歴からセンターにあってきた相談について把握、確認	10月	・センターの周知方法を検討
						5月	・民生委員、自治会長、活動代表者と関係づくり	11月	
						6月		12月	
					生活支援体制整備	7月	・民生委員、自治会長、活動代表者へ地域の状況について聞き取り	1月	・センター周知のための取組実施
						8月		2月	
						9月		3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとこうなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
錦浦小学校区	錦浦小学校区の認知症に関する相談件数は、年々増加している。 オレンジサポーター養成講座の周知がされておらず、錦浦小学校区全体に認知症の理解を広げる必要がある。	地域の方々の認知症の理解を深めるために錦浦小学校区の集いの場を切り口にオレンジサポーター養成講座を開催する。	地域で認知症の理解を深めよう	・錦浦小学校区の認知症相談件数を分析する。 ・オレンジサポーター養成講座実施のための準備、開催をする。	◎ 認知症	4月	錦浦小学校区で認知症に関する相談がセンターへどれくらい入っているか分析	10月	オレンジサポーター養成講座の実施
						5月		11月	
						6月		12月	
					一般介護予防	7月	オレンジサポーター養成講座を実施するサロン等を検討、声かけ	1月	オレンジサポーター養成講座の実施
						8月		2月	
						9月		3月	

魚住東中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

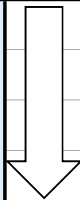
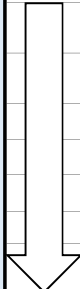
対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け②(どんな情報を根拠にしている)	目標（目指すべき理想）解決するところなる、なしてほしい③	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること① ④	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
新々田	自治会役員が会長と会計のみで地域活動がない。また地域に集い場がないため、情報交換する場がなく、センター等相談先が浸透していない。	困り事の相談先としてセンターが周知されている。	新々田を知り尽くそうプロジェクト	- 自治会長と関係を築き、自治会の状況や地域の課題を聞き取る。 - 民生児童委員にひとり暮らし台帳登録者の状況について聞き取る。 - 現地を訪問し、居住状況等を調査する。 - 自治会長や民生児童委員とセンターの周知方法について話し合いを行う。	◎ 総合相談 生活支援体制整備	4月	ひとり暮らし台帳、データベースからの情報収集	10月	
						5月	民生児童委員への聞き取り	11月	
						6月		12月	地区の関わりの中間評価実施
					認知症	7月	自治会長への聞き取り	1月	中間評価の基づく具体的な活動（アプローチ）実施
						8月	民生児童委員への聞き取り	2月	
						9月	住民の意識調査（アンケート）または聞き取り実施	3月	

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するところなる	プロジェクト名	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
魚住東中学校区	スーパー従業員が認知症の人の対応で困っているとの情報が、民生児童委員を通じてセンターに入る。認知症の人への対応や、相談窓口が浸透していない	認知症の人が買い物等の日常生活を送ることができ、店舗等で困っている人がいる場合に適切な相談先に繋がることができる。	認知症にやさしい町づくりプロジェクト	- 圏域内の企業や店舗からオレンジサポーター養成講座の候補先を選定する。現在33か所をリストアップし年度内に2か所で実施を目指す - 候補先にオレンジサポーター養成講座を働きかけ、認知症の顧客等で困ったことがなかったか聞き取りを行う。 - オレンジサポーター養成講座を実施し、正しい知識や対応、相談窓口を周知する。	◎ 認知症 生活支援体制整備	4月	オレンジサポーター養成講座候補の選定	10月	
						5月	企業・店舗にアンケート、聞き取り調査	11月	オレンジサポーター養成講座実施
						6月		12月	
					一般介護予防	7月	オレンジサポーター養成講座候補の決定	1月	オレンジサポーター養成講座実施
						8月		2月	
						9月	オレンジサポーター養成講座実施	3月	
					権利擁護				

二見中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け ②(どんな情報を根拠にしているか)	目標（目指すべき理想）解決する とこうなる、なしてほしい③	プロジェ クト名	課題（現実と理想のギャップを埋 める）やること① ④	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）			
二見北小学校区	①認知症の高齢者を介護する家族の介護負担が大きい。 ・R5年度は警察からの認知症に係る情報提供書が32件あった。その中で「一人歩きで保護された方」が15件あり、二見北小学校区が10件と全体の67%を占めていた。 ・権利擁護台帳から被虐待者はほぼ認知症を患っていた。 ②認知症の正しい理解を普及させる。 ・令和5年度の総合相談から、認知症の初期に関する相談、チェックリスト実施、専門医受診に関する相談が数件で少なかった。 ③問題が重度化してから相談が入ることが多い。 ・認知症に関する総合相談において、圧倒的に権利擁護事例（虐待、後見）での対応となっている現状がある。 ・令和5年度は成年後見制度の利用において、早期からの相談ではなかったため、本人の意思に沿った利用に繋がらなかった。 ④一部の集合住宅において高齢化率が高まっている。また、経済困窮の相談が多い。 ・早期に本人から相談が入る事が少なく、支援者が経済的困窮に気付いてから相談が入ることが多い。	認知症の方を介護する家族や、本人が早期に気付き、『自分で意思決定ができなくなった時』に備えて検討することができる。 生活に困り事が生じた際、早期に必要な機関へ相談することができる。	早期に気付く相談しようプロジェクト	(1) 地域を絞り、健康測定会を兼ねた福祉相談会を実施し、地域住民のニーズを把握する。 ・人生会議、成年後見制度の利用促進に関する情報提供を行う。 ・二見まろう会から福祉専門職に協力依頼を行い、他視点で課題を共有分析する。 (2) オレンジサポーター養成講座を開催する。 ・若い世代にも認知症の正しい知識の普及に向けて小学校や中学校へオレンジサポーター養成講座の受講に関して打診する (3) 必要に応じて各地域のサロンや高年クラブ、自治会等へ出前講座を実施する。 ・講座内容に関わらず『もしもの時の備えシート』を配布する。 ・地域住民が理解しやすい『成年後見制度利用に関するチラシ』の作成を検討する。 (4) サテライト相談会を実施する。 ・上西厚生館（月1回） ・阪神調剤薬局（半年に1回）	◎ 一般介護予防生活支援体制整備 権利擁護 医療介護連携 包括的継続的 ◎ 生活支援体制整備 権利擁護 医療介護連携 一般介護予防 ◎ 総合相談 ◎ 認知症生活支援体制整備	4月	(3)出前講座の開催（随時）	10月	(1)絞られた地域での健康測定会の実施
							成年後見制度利用に関するチラシ作成の検討		・住民のニーズ調査の実施
							(4)上西厚生館 サテライト（月1回）		・地域課題の抽出、評価
						5月	(2) オレンジサポーター養成講座の開催（随時）	11月	
							学校へオレンジサポーター養成講座受講依頼（時期を見て検討）		
						6月	(4)第1回 阪神調剤薬局サテライト	12月	(4)第2回 阪神調剤薬局サテライト
						7月	(1)各自治会会長と打合せ	1月	
							・開催日、周知方法検討		
							・二見まろう会、まちの保健室へ協力依頼		
						8月	・測定機器の予約	2月	
							・チラシ作成		
						9月	・チラシ配布	3月	

二見中学校区 地域支援計画書（令和6年度事業計画書）

対象	問題（変えるべき現状）きっかけ、裏付け	目標（目指すべき理想）解決するとうなる	プロ ジェク	課題（現実と理想のギャップを埋める）やること	当てはまる事業 主となる事業に◎	年間での予定（ざっくりしたものでOK、変更があってもOK）						
二見 中 学 校 区	①男性介護者に関する相談が多い。 ・令和5年度、二見中学校区では男性介護者に関する相談が多かったが、圏域内に当事者や家族、関係者等が集える場所がない。 明石市社会福祉協議会主催のだるま会（男性介護者のかたり場）に参加している地域住民から「当事者や家族が集える場所が近くに欲しい」との声があった。	近隣に相談相手や集える場所があれば、地域住民は安心して生活することができる。 センターが医療機関、介護サービス事業所、行政機関等と連携を強化する。 地域資源が増え、地域活動の新たな担い手を発見・育成できる。	ミ ツ ク ス カ フ ェ 立 ち 上 げ プ ロ ジ ェ ク ト	(1)会場、協力者の選定 ・二見まろう会、キャラバンメイト交流会で協力依頼 (2)立ち上げに向けた実務者会議 (3)明石市内の他校区で開催されている認知症カフェを見学し、情報を収集する。	◎ 総合相談 権利擁護 包括的継続的 地域ケア会議 医療介護連携 認知症 生活支援体制整備	4月	4～6月 会場候補地の選定	10月				
							(2)第1回 センター内会議 ・プロジェクトの共有 ・場所の情報収集					
						5月	・(3)他校区の見学	11月		(2)第1回 実務者会議 ・(4)課題抽出 ・解決方法の検討		
						6月	(2)第2回 センター内会議 ・情報共有 ・候補地を絞る	12月				
	②認知症や生きづらさを抱える人に関する相談が多い。 ・令和5年度は高齢者の1人歩きや障害をお持ちの方の金銭管理や近隣とのかかわり方等に関する相談が多かった。その中には近隣に適正な支援者がおらず、問題が重度化してから相談に至る事例が散見された。	当事者、家族、関係者との横のつながりができれば、問題が重度化する前に早期発見できる。 当事者が適切な支援を受けることができる。				◎ 総合相談 権利擁護 包括的継続的 地域ケア会議 医療介護連携 認知症 生活支援体制整備	7月	(1)7～9月 会場、協力者の選定	1月	(2)第2回 実務者会議		
												
							8月		2月			
							9月	(2)第3回 センター内会議 ・会場確定 ・協力者の協議	3月	(2)第3回 実務者会議 ・(5)広報の検討 具体的な次年度計画作成		